

ITC 組織立ち上げ「地域ワークショップ（近畿・四国地区）」

委員長あいさつ

IT コーディネータ協会
業務開発・広報委員会 委員長 西岡 郁夫

皆さん、9月なのに大変暑いところお集まり頂きありがとうございます。既に一汗かいてしまいましたが、限られた時間ですので、早速、双方向で議論を進めていきたいと思えます。

今日の「地域ワークショップ」の主旨は、日ごろから熱心にビジネスを進めようとしている ITC 同士が、自分達の活動プランや実践の方法を発表して、更にそれに対して皆が意見を出し合い、「そういう方法があるのか、それならうちの地域でもやってみようか」というような『情報交換の場』を作ることにあります。

昨年度は全国 3 地区で開きましたが、結構良い議論ができたので、今年度は、協会に ITC 組織の事業計画を提出した 22 組織を対象に、全国 6 地区でやるということを委員会で決めて実施しています。先日（9/13）は関東地区のワークショップをしましたが、この後、福岡で 11/1 に九州地区のワークショップを、その後も、今年度（1~3 月）3 地区（中部地区、中国地区、近畿地区）での開催を予定しています。

ですから、このワークショップでは「なるほど、いいことを聞いたな」と思って聞き耳立てているだけではダメで、自分からどんどん意見を出すことでそれに対して更に意見が出てきて「ははあ、そういうこともあるのか」と、議論も深まって行き、初めていい情報交換ができるんじゃないかと思っています。だから、説明の中で、わからないことがあったら、その場で質問して結構です。わからないまま進んでしまうと「何か良くわからんまま終わったな」という事になりかねない、私の主催するミーティングでは絶対にそういう事がないようにしたいと思います。

さて、昨年度末に、ITC の方々、約 3 千名から本格的なアンケートをとらせて頂いたのですが、協会に対する要望の中で「IT コーディネータという名前が、まだ有名じゃない。だから商売をやりたいのだけどやりづらい。IT コーディネータの認知度をもっと上げて欲しい」ということが多く書かれていました。これは、私の業務開発・広報委員会（委員長）としての責任でもあるので、この度、広報強化の具体的なアクションとして、今日も参加してもらっている広報のプロの、明石さん、長谷川さんに協力していただくことにしました。また、今年からは、委員会に日経 BP 社の古沢取締役にもお願いして、委員として入って頂きました。どうすれば ITC が記事になり易いかを、書くほうの立場で一番わかっている方なので。

そして、こうしたメンバーで私たちが議論したのは、ITC の記事がいわゆる全国紙でポンっと出るのは派手で良いのだけど、それはそれでやっていくとしても、地元紙だとか業界誌に出たほうが、実際の仕事に繋がると言う点では、本当は意味があるんじゃないか、ということでした。例えば、全国紙の日経新聞でも、その中に大阪版とか、香川版とか、福井版とか地域の情報紙面もある。地方の記者は、毎日、地元に関係する記事の材料や人

を探しているんです。わざわざ探している記者がいるのに、そこに行かない手はないと思う。ということの後ほど、長谷川さんから、記事になるニュースリリースの作り方やアプローチの説明等を具体的にやってもらいます。折角こういうことをやるのだから、是非、今日参加した皆さんの組織のどこかを必ず記事にしたい、と思っています。

また、今日は、業界専門紙ソフト人脈の乳井編集長に出席して頂いておりますが、ソフト人脈は、傘下に中小企業の経営者が読む媒体をいっぱい持っています。今日参加した ITC の皆さんの話を記事にしてもらおう、という手もあるんじゃないかと考えております。だから今日は記事に使えるいい写真をとってもらいますので、皆さんいい顔をして議論して欲しいと思います。

それから、一つわれわれにグッドニュースです。10月から国の主催する「情報化月間」が始まりますが、10月2日に東京の ANA ホテルでイベント（記念式典）が催されます。そこで、今回、「IT 経営促進企業」として中小企業では日本で唯一、大阪の送風機メーカー「昭和電機(株)（柏木武久代表取締役）」さんが経済産業大臣賞を受けられます。その昭和電機を指導されたのが、今日出席の IT 経営総研の ITC 森下さんと岩佐さんです。昭和電機さんに入塾して頂いてお二人の ITC を紹介したのは西岡 IT 塾ですが、こうした実績を積み重ねて、いろんなところで記事として取り上げてもらい、ITC に有名になってもらいたいと思っています。

そういうことで、今日は、盛りだくさんでやって頂きたいと思いますので、是非、前向きのご参加をお願いいたします。

以上